



新潟県は21日、津南町大字中深見地内で「雪冷熱活用データセンター」運転開始式を執り行った。

雪の恵み、歴史の転換点に データセンター運転開始式

— 県 —

この日は関係者約50人が出席、新たなインフラ施設の待望の完成を祝った。

テープカットを行う泉田知事(中央ら)

あいさつに立った泉田裕彦知事は「きょうの運転開始を、あの時歴史が変わった、と振り返る日が来るよう頑張りたい」と力を込め、来賓祝辞では、上村憲司津南町長が「雪は逃れることのできない宿命だと思っ

たが、恵みをもっと感じたい」と時おり声を詰まらせながら感謝の思いを述べた。

その後はテープカット、施設見学が行われ、冷却設備に手を触れた泉田知事は「頭が痛くなるほど冷たい」と驚いていた。

県が、アオスフィール

ド(新潟市東区本所)を代表企業とする4社の共同企業体に事業を委託しているもの。構成員は、ゲットワークス、ドールン、Flower Communicationの3社。コンテナ型データセンター1基(5ラック)に雪冷熱を供給する。貯雪量が3100立方メートル。雪冷熱供給期間中の消費電力では、通常の約半分の6万7900キロワットを想定。9月まで実証試験を行い効果検証に係るデータを収集する。

アオスフィールの佐藤文則代表取締役は「構築費用が抑えられリーズ

ナブルに提供できる。災害が増設も可能」とコンテナ型があれば動かせるし、一型のメリットを語った。